大学生の認知症の人への態度とエイジズムの関連
−非医療福祉系専攻の学生に着目して−

森下久美（桜美林大学大学院老年学研究科）・長田久雄（桜美林大学大学院老年学研究科）

キーワード：認知症, エイジズム, 非医療福祉

目　的

我が国は人口の深刻な高齢化に伴い，認知症患者数が著しく増加している．その人口は2012年時点で462万人に達し, 2025年には推計700 万人に達すると報告されており, 認知症は本人と家族のみではなく，地域および多領域で支える時代が到来したといえる．さらに認知症の人の意思が尊重される地域づくりには，次世代を担う若者の理解の普及が必須であり，多くの若者は地域･社会の一員としてのみではなく，家族介護の担い手としても認知症の人に関わることを踏まえると現代の若者が認知症の人に対してどのような態度を有しているのかを明らかにすることは意義深い．一方で，若者を対象とした認知症に関する知見の多くは，医療福祉の専門領域の学生を対象としたものが主であり，児童および非医療福祉系専攻の学生を対象とした知見が不足している．また認知症に関する知識が乏しいために，認知症を老化現象の一部であるという誤った認識が潜在することも明らかとなっている 2) ．そこで本研究では，認知症および老いに関する専門的教育を受けていない非医療福祉系専攻の大学生を対象とし，認知症の人への態度の実態およびエイジズム（老い，高齢者への態度）との関連性を明ら かにすることを目的とする．

方 法

対象：東京都内A大学の非医療福祉系専攻の学生

調査時期：2017 年 9 月 27 日～10 月 9 日

方法：自記式質問紙調査 調査項目：

認知症の人への態度尺度15項,日本語版Fraboniエイジズム尺度短縮版14項目 ,認知症に関する知識尺度15項目,基本属性

倫理的配慮：桜美林大学研究倫理委員会の承認（No.17020）を得て実施

分析方法: 上記項目を数値化し, 重回帰分析, Pearsonの相関係数により認知症の人への態度とエイジズムの関連性を検討する.統計解析にはIBM SPSS statistics 24.0を用いた.

結　果

調査対象者328名から回収できたアンケート243通（回収率74.1%）から，医療福祉系専攻の学生1名，留学生48名, 欠損値が著しく目立つ3通を除外した計191名を最終的な分析対象とした.

＜対象者特性＞

項 目		人数(%)	項 目		人数(%)
性 別	男 性	81(42.4)	祖父母との同居経験	あり	53（27.8）
	女 性	110(57.6)		なし	138（72.2）
年 齢	平均値±SD	19.8±1.4	身内における	いる	30（15.7）
			認知症の人の有無	いない	161（84.3）
学 部	リベラルアーツ	150(78.5)	認知症サポーター	あり	3（1.6）
	ビジネス	39(20.4)	養成講座受講経験	なし	188（98.4）
	芸術文化	2(1.1)	受講時期（n=3）	高校生	1（33.3）
				大学生	1（33.3）
				非回答	1（33.3）

＜各項目の相関関係＞

認知症の人への態度は年齢およびエイジズムの下位尺度である「回避」「嫌悪・差別」「誹謗」と有意な相関を示した（順に r=.223**，-.532**，-.512**，-.372**）.

＜重回帰分析＞

認知症の人への態度を従属変数，年齢，性別，身内における認知症の人の有無，認知症に関する知識，エイジズム下位尺度を独立変数とした結果，R2 乗値は 0.37***と有意であった． またエイジズムの下位尺度である「回避」（β=-.317**），「嫌悪・差別」（β=-.21*），年齢（β=.186*）において有意な関連性が示された.また多重共線性も認められなかった.

考　察

医療福祉系専攻の学生を対象とした先行研究において，認知症に関する知識と態度との関連性は多く報告されている．しかし本結果は支持しなかった.この理由として, 知識内容が影響すること，さらに認知症の人への態度に類似した概念であるエイジズムを投入したことで知識の関連性が強く統制されたことが考えられる.エイジズムの下位尺度では，誹謗（ステレオタイプ的認知）が非有意な関連，回避が最も高い関連性を示したことから，高齢者へのネガティブな認知の保持より高齢者を回避する態度を有することが，認知症の人への拒否的態度形成に関連することが示唆された.さらに認知症に関する知識と回避は有意な相関関係（r=-.174*）を示すことから，高齢者を回避する態度を有することが認知症に関する知識獲得の機会の損失につながる可能性が考えられる.

最後に本研究の限界点は次の 4 点である． ①横断研究，②対象の抽出方法，③自記式質問紙票による態度測定，④エイジズムと認知症の人への態度のトートロジー関係

本研究は発表に関連し，開示すべき利益相反関係にある企業などはありません.

MORISHITA Kumi, OSADA Hisao